

# WAICE NOW

ワイス ナウ

Wadayama Association of  
International Cultural Exchange

わだやま国際文化交流協会

事務局 朝来市市民文化部和田山地域振興課

朝来市和田山町東谷 213-1

TEL 079-672-6137

FAX 079-672-1334

## 第32次教育視察団 内モンゴルフフホト市を訪問

### 内モンゴル自治区の成立70周年を祝して

会長 垣尾 幸博



高層ビルが立ち並ぶフフホト市内。人口は約300万人（2015年末）。高速道路、地下鉄などの工事と合わせ、70周年記念行事に向けた準備も進む。



内モンゴル自治区教育庁にて。  
今回は垣尾会長以下、全6名の団員で訪問。3泊4日の行程で市内各所を視察し、交流を深めました。

2017年は、内モンゴル自治区成立70周年の記念すべき年であり、訪問時は内モンゴル自治区あげでの熱烈歓迎をしていただきました。初夏のさわやかな天候に恵まれ、6月19日（月）から22日（木）まで、予定していたスケジュールをすべて順調に終えることができました。

相互交流は本年度で29年目となり、教育視察団は通算32回目の派遣、そして秋には26回目の日本語研修生の受入を予定しています。昨年度、民間レベルの国際交流事業を対象とした自治体国際交流表彰（総務大臣賞）を受賞し、大変高い評価を受けたところです。これもひとえに、内モンゴル自治区人民教育基金会、フフホト民族学院、そして何よりも会員の皆様のご支援の賜物であると感謝申し上げます。

今回の交流では、人的ネットワークが非常に広がり、多くの成果がありました。人民教育基金会の全面的なバックアップ、フフホト民族学院の関係者の皆さんの献身的な支援によって視察の幅も広がり、初めて内モンゴル師範大学附属中・高等学校、モンゴル民族幼稚園を訪問しました。まちづくりのみならず、各校園の新しいキャンパス、整備された図書館や実習室、メディアセンターなどの学習環境等、フフホト市の教育が加速度的に近代化していく実態を目のあたりにすると同時に、熱心に授業に取り組む子どもたちの様子を垣間見ることができました。

師範大学附属中・高等学校では、授業のようすが内モンゴル自治区内の学校にテレビ会議システムによってライブ配信されており、すぐれた授業が地域で共有化されていました。また、モンゴル民族幼稚園には600人の児童が在園しており、新キャンパスで遊戯を見せてくれた子どもたちの歓迎ぶりに楽しいひと時を過ごすことができました。いずれにしても、民族教育の特色が強く、文化や伝統の継承という面が随所に見られました。そして、地域差もある中で、日本のきめ細かな教育を視察したいと希望する先生方が多くありました。

例年通り、人民教育基金会での意見交換会、フフホト民族学院での今秋招へいする研修生の面接選考や日本語学科の授業視察も行いました。フフホト民族学院での座談会では、これまで和田山で研修を受けた日本語教師をはじめ、最近の研修生も顔を見せてくれ、和やかな会となりました。鄂斯琴（エスチン）先生や金鈺（ジンユ）先生、宝金山（バオジンシャン）先生など多くの旧友と



3,400人もの生徒が学ぶ師範大学附属中・高等学校。教育環境がよく整備されていました。



歌と踊りで熱烈に歓迎してくれたモンゴル民族幼稚園の園児たち。

**関係機関との交流協議 主な関係者**

=順不同・敬称略=

自治区人民教育基金会	名誉副理事長 杨曼 名誉副理事長 布和 理 事 長 赵忠 秘 書 長 钱晓颖 監 事 宝志杰
自治区教育厅	副 厅 長 张亚民 国際交流担当 赵晓芳 民族教育担当 包福全 基礎教育担当 刘莎英
内モンゴル師範大学附属中学	校 長 张伟 書 記 乌仁图亚
モンゴル民族幼稚園	園 長 吴海棠 副 園 長 乌日勒格
フフホト民族学院	学 院 長 格日乐图 副 学 院 長 賀希格吉雅
わだやま国際文化交流協会	会 長 垣尾幸博 副 会 長 石原武士 理 事 山田稔 会 員 越智靖 会 員 足立三佐雄 事 務 局 長野大輔

も再会でき、まさに"友情に国境なし"の言葉があるように、この機会に友好関係を一層深めました。

今回の訪問でも、杨曼（ヤンマン）人民教育基金会名誉副理事長、格日乐图（グリラト）フフホト民族学院長をはじめ、多くの関係者の方に大変お世話になりました。厚く感謝申し上げ、教育視察団を代表してのご報告とします。

なお、島田喜良前会長が6月14日に死去されました。本協会の設立から今日まで、教育を軸とした各種事業の推進に多大なるご尽力をいただきました。会員一同、心からのご冥福をお祈り申し上げます。

## ◆内モンゴル自治区人民教育基金会にて◆

内モンゴル自治区教育庁の庁舎内にある人民教育基金会を訪問し、今後の交流について協議しました。意見交換の中での主な提案は次の内容でした。

- ① 交流を継続し、社会変化に対応したさらなる工夫を加えより良いものにする。
- ② 子どもたちのフフホト市への派遣を検討する。
- ③ 市連合国際交流協会を通じて、交流事業を市全体に広げる。
- ④ フフホト民族学院の学生を対象とした福祉介護の実習体験プログラムを検討する。
- ⑤ フフホト市の幼・小・中・高等学校の教員の日本への派遣を検討する。

今後、会員の皆様にご意見をいただきながら、十分協議をしたいと思います。



人民教育基金会、教育・国際交流担当部署との協議の様子。



民族学院での懇談の様子。

15学部38学科で8,300人が学んでいるとのこと。

## ◆フフホト民族学院にて◆

平成29年度日本語研修候補者の面接と日本語学科の授業視察を行いました。

面接には4名の学生が臨み、緊張しながらも団員からの質問に日本語で答えてくれました。4名とも大変優秀で、担当の教師からも強い推薦があったことなどを踏まえ、帰国後に協議した結果、全員合格とし、日本語学科の教授1名を合わせ、計5名を今秋に招へいすることとしました。

### 平成 29 年度

### 第 26 次

### 日本語研修生の紹介



馬福山  
(マフシャン)  
フフホト民族学院  
日本語学科教授



包萨茹拉  
(ボウサルラ)  
フフホト民族学院  
日本語学科3年生



赵欣  
(チョウキン)  
フフホト民族学院  
日本語学科3年生



王济  
(オウザイ)  
フフホト民族学院  
日本語学科3年生



石帅  
(シシュワイ)  
フフホト民族学院  
日本語学科3年生



緊張感が漂う面接会場。

### ◆団員からの感想◆

今年も日本語研修候補者の面接を行いました。会場の雰囲気は昨年とはまるで違っていました。端正な身のこなしの学生4名が、5年前の研修生と昨年の研修生に見守られながら廊下に立っているではありませんか。

いよいよ面接が始まりました。テーブルを挟んでの面接に、受験生たちの緊張が極限にまで達しているのを感じました。今年の受験生は、和田山での研修を希望する多数の学生の中から、一次選考で8名に、さらに二次選考で4名に絞られた精鋭。全員が卒業後に日本留学を希望しており、熱意は十二分に伝わってきます。いずれも甲乙つけがたく、できることなら4名全員を和田山に迎えたい。私たちは、うれしい悲鳴をあげながら選考を進めました。

一昨年の研修生のうち1名は、今年の春に日本の公立大学の大学院に入学。もう1名は、日本語学校で日本語をさらに磨いた上で、来年の春に大学院に入学を予定しています。昨年の研修生3名のうち2名も、日本の大学院に入学を希望しており、和田山での研修がきっかけとなって日本留学の希望者が増えています。

以前にはなかったことで、わだやま国際文化交流協会の取組みにとって本当に喜ばしく、私たちの大きな励みになっています。

以前にはなかったことで、わだやま国際文化交流協会の取組みにとって本当に喜ばしく、私たちの大きな励みになっています。

(山田 稔)



これまでに日本語研修生として和田山に来たことがある教師・学生とも再会できました。

## 会員・ホームステイにご協力いただける方を募集しています

本年度の理事会や総会でもご指摘を受けましたが、会員の増強を行っていきます。会員の皆様のご友人、知り合い等で国際交流の活動に興味や関心のある方をご紹介ください。事務局にご一報いただければ、役員が活動内容の説明にあがります。よろしくお願ひします。

また、今年度も秋にフフホト民族学院日本語学科の教授1名と学生4名を日本語研修生として招へいします。ホームステイをご希望される会員の方は事務局までご一報ください。1か月間の滞在予定ですが、数日の受け入れでも結構ですので、ぜひご協力をお願いします。